

# 「MASP なんでも高座」

## 【発表内容概要】

2017年3月9日

氏名	南波 幸雄(ナンバ ユキオ)	会社名	
電話等	045-826-4431 <a href="mailto:nambay@ba2.so-net.ne.jp">nambay@ba2.so-net.ne.jp</a>		
<b>【テーマ】</b>			
「概念データモデルを適用したプロジェクトマネジメントの考え方：CDPM <sup>2</sup> 」			
<b>【ねらい】</b>			
<ol style="list-style-type: none"><li>(1) プロジェクトマネジメント(PM)における WBS の作り方において概念データモデルの考え方を適用する方法を提案する。</li><li>(2) さらなる発展形として、FBOM を適用した場合の今後の方向性を示す。</li></ol>			
<b>【内容】</b>			
<p>プロジェクトマネジメントの手法として、種々のものが紹介され、適用されているが、それらのプロジェクトそのものが、予定通りに終了できたかどうかは、必ずしも確かではない。近年プロジェクトマネジメントの考え方と手法を体系化した、PIMBOK など急速に普及しているように見えるが、これを適用したプロジェクトが、うまくいっているかどうか定かではない。</p> <p>うまくいかない理由としては、WBS(Work Breakdown Structure)におけるタスクの定義に問題があると考えている。</p> <p>本来プロジェクトは、不確定要素のある「ものごと」を成し遂げるための管理の考え方である。そのため最終成果物を規定する「もの」と、その構成要素としての「もの」との関係は、静的モデルで規定できなければならない。また「こと」は、構成要素としての「もの」を作るための「こと」として動的モデルの要素で記述できるはずである。</p> <p>このように概念データモデルを適用してプロジェクトを記述できると、従来の手法では難しかった、リードタイムの短縮も、合理的に考えられるようになる。</p> <p>本高座において、以上の考え方を紹介したうえで、さらなる発展形として、FBOM を適用することのより、イベントなどの管理にも有用であることを示したい。</p>			
<b>【職務経歴】</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>- 大学院修士課程修了後、ソニー株式会社に入社。当初は中央研究所および関連事業所において、磁気テープ関連の研究開発および製造技術、生産技術、製造などの業務に取り組んだ</li><li>- 所属事業部の生産管理システムプロジェクトに参画したのを契機に、情報システム業務に従事。工程管理システムおよび生産基礎情報、原価管理システムの概念設計などを担当した</li><li>- その後生産管理システムの海外工場展開や、全社対象の製販物流プロジェクトの事業部メンバーとして、基本設計および海外への導入支援などを受け持つ</li><li>- 本社IT部門に異動後は、全社ネットワーク構築やメッセージブローカ構築プロジェクト、SCMプロジェクトなどの責任者または技術責任者として従事した</li><li>- マネックス証券株式会社では、CIO等として、オンライン証券システムのオープン系システムの運</li></ul>			

用管理レベルの向上やキャパシティプランニング、セキュリティマネジメントなど安定稼働の維持と、投資計画や情報システム企画業務に従事した

- マネックス退職後は、独立情報システムコンサルタントとして、概念データモデルの指導やCIOアドバイザ、企業情報システムアーキテクチャ概念の普及に努めている、
- 産業技術大学院大学教授およびBond-BBT MBA客員教授として、企業情報システムアーキテクチャおよび関連分野の研究と、主として社会人学生を対象としての情報システム教育に従事した。
- 法務省CIO補佐官として情報システム調達プロセスのレベル向上と、要員教育に貢献している。また政府CIO補佐官に就任後は、コスト削減計画についても助言している

## 【自己紹介】

- 学生時代からソニー入社後 10 年間までは、化学工学のエンジニアとして、主として磁気テープ用磁性材料の研究開発から製造技術および生産技術に従事した
- その後情報システムに従事するようになったが、基本的な頭の構造は工学部
- 情報システムの経験は、ほとんどユーザー部門（発注側）。発注側において重要なことは、特定の分野のエキスパートになることは望ましいが、それよりは業務の理解と、基本的な技術に関して、全般的に理解できるようになる事だと考えている
- それを前提として、特定の先端技術を使用するときは、その道のエキスパートの話を理解でき、また発注側としての要求を正確に伝えられる能力が必要になる
- それをまとめたのが、「企業情報システムアーキテクチャ」

## 「著書等」(共著、単著)

- ✓ 経営情報学会システム統合特設研究部会（編）『成功に導くシステム統合の論点—ビジネスシステムと統合した情報システムが成否の鍵を握る』、「企業情報システムにおけるシステム統合と都市計画アプローチ」を担当 日科技連出版社、2005.
- ✓ 南波幸雄『企業情報システムアーキテクチャ』翔泳社、2009.
- ✓ 根来龍之，経営情報学会（編）『CIOのための情報・経営戦略—ITと経営の融合』，第10章 IT経営と企業情報システムアーキテクチャ 担当，中央経済社，2010.

以上